

枚方市議会議員 改革系無所属

駅前配布版 第92号(通算121号)  
平成27年3月発行

# かじや知宏 ともひろ 議員報告

〈生年月日〉昭和43年9月12日 〈年齢〉46歳 〈出身地〉大阪府枚方市 〈趣味〉読書、スポーツ観戦、神社仏閣巡り 〈血液型〉O型  
〈経歴〉阪保育所→殿山第二小→枚方三中→牧野高→龍谷大→報知新聞社(11年)→枚方市広報課(3年3ヶ月)→行政書士

〈市役所〉〒573-8666 枚方市大垣内町2-1-20 電話072-841-1221代

〈自宅〉〒573-0171 枚方市北山1-23-57 電話090-3705-9393

Eメール tomohiro@t-kajiya.com

かじや知宏のホームページ  
<http://www.t-kajiya.com>



## 議会改革の取り組み 議員定数・報酬の削減、議会基本条例の制定

### 政策立案機能の強化や情報公開などの改革を進めてきました



枚方市議会では、さらなる議会改革の取り組みを進めるため、平成23年度に議会改革調査特別委員会を設置し、年度ごとに取り組むテーマを決めて協議をしてきました。その結果、議員報酬や定数のあり方、議会基本条例の制定などの課題について一定の結論を出すことができました。特に定数については、本年4月の選挙から2名減の32名となります。これは有権者約1万人に1人の割合であり、中核市としては全国でトップレベルの少ないものとなります。

また、議会従来の評価・監視機能に加え、政策立案機能を強化するため、今任期から新たに各常任委員会で所管事務調査に取り組んできました。所管事務調査とは、常任委員会が自主的に市の事務について行う調査のことで、常任委員会の発議により、市政の各分野における課題の解決に向け、市長等の執行機関に対し、具体的な政策や施策を積極的に提案するものです。その他にも、インターネットを活用した一般質問などの動画配信など、議会の情報公開についても改革を進めてきました。

これらの改革の評価は、民間の調査研究機関の議会改革度ランキングに反映されています。日経グローバルの議会改革度調査で全国813市区議会中86位(前回166位)、早稲田大学マニフェスト研究所の議会改革調査で全国1444地方議会中15位(前回は92位)と、改革度ランクが上昇傾向にあります。改革度ランクはあくまで指標のひとつに過ぎませんが、やはり何らかの目標やそれに伴う評価は必要です。まだまだ残された課題もたくさんありますが、今後もこの流れを止めることなく、さらなる議会改革に取り組んでいきます。

〈裏面に続く〉

税金の流れの透明化

ムダの排除

既得権の見直し

## 市民の手に税金と政治を取り戻します!!

活動の詳細はホームページをご覧ください

かじや知宏

で 検索



ブログのQRコード



tomohiro.kajiya



@kajiya\_tomohiro

※フェイスブックとツイッターのアカウントを開いています。

駅前報告を行っています

～550回継続中～

一人でも多くの市民の方に市政情報をお伝えしたいという想いから、午前6時20分頃～8時30分頃に駅前「議員報告」の配布を行っています。

## 【今任期の議会改革の主な取り組み】

- ◆議員定数の削減：34名→32名（27年4月の選挙から2名削減）、年間削減額2143万円
- ◆議員報酬の削減：6%カット（24年4月分から）、年間削減額1661万円
- ◆議員が兼任する審議会等の委員報酬の不支給：都市計画審議会、病院事業運営審議委員会、民生委員推薦会などの報酬をゼロに（24年度から）、年間削減額98万円
- ◆政務活動費の用途の厳格化：交通通信費に年間上限額と按分率を導入
- ◆議会基本条例の制定：通年議会の導入（27年5月から）、議員間討議の導入など
- ◆インターネットでの動画配信の実施：代表質問、一般質問
- ◆各常任委員会での所管事務調査の実施：
  - 総務常任委員会（中核市への移行について、総合文化施設について）
  - 文教常任委員会（学力向上に向けた教育環境の整備について、枚方市立図書館について）
  - 厚生常任委員会（保育所待機児童対策について、障害者の日中活動支援等について、児童発達支援センターについて）
  - 建設常任委員会（浸水対策について）

## 3月議会報告 職員の定年退職時期を半期（年2回）から年度末（年1回）に

### 改革の後退と受け止め、議案に反対しました



3月4日の本会議では、これまで9月末と3月末の半期ごと（年2回）であった職員の定年退職の時期を3月末の年度末（年1回）に変更するという議案を審議しました。かつて枚方市では年度末退職制度を取っていましたが、中司市長時代の平成18年に現在の半期退職制度に改め、年間で約2億円の削減効果を出していました。現在では退職する職員の減少もあり、年間約5000万円の効果額になっていますが、いまだその効果額は大きいものがあります。しかし、今回の議案はその半期退職制度を、またかつての年度末退職制度に戻すというものです。また、定年後に雇用される再任用職員については、任期満了時期を年度末から9月・3月の半期にするというものです。

議論の中で、財政的な効果額の比較について話がありましたが、市側からは明確な答弁がありませんでした。約5000万円の効果額がある現在の半期退職制度を年度末退職に戻すとすれば、明確な効果額を示す必要があります。私としては、民間企業で誕生日ごとに退職する制度が主流となっている中、再任用職員も含めて民間なみの誕生日退職とし、さらに改革を進めるべきだと考えています。また、これから定年延長についても議論がされていく中で、今すぐ退職時期だけを取り上げて制度を小手先だけ変更するのではなく、人事・給与制度を根本から改革していかなければならないと考えています。よって私は会派の議員と共にこの議案に反対しました。

しかし、結果は賛成20人、反対13人で議案は可決されました。7会派中、3会派が反対、2会派が賛成、2会派で賛否が分かれました。

4月26日は枚方市議会議員選挙の投票日です

あなたの一票が枚方の未来を決めます

選挙に行こう！